

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	地域に役立つ公園づくり事業						掲載ページ		
							137		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建設局
		162,235	千円	175,000	千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	みどり・公園整備課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 身近な公園の再整備について、小学校区単位で開催するワークショップで計画段階から地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指します。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	H26年度は、4校区でワークショップを開催し、計画策定を行います。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
		計画策定校区数 毎年、各区の事業実施進捗率や街区公園の老朽化度、まちづくり活動への積極性などをもとに、複数校区を選定し、計画策定を行います。 （最終目標と最終年度）	2 校区	4 校区	4 校区 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	（最終目標と最終年度）					

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	H26年度に、4校区でワークショップを開催し、計画策定を行いました。ワークショップを通じて、公園のあり方や維持管理の視点など、地域の公園の現状や問題点などを共有することができました。また、このほか、ワークショップにおける意見交換や小学校児童への遊具アンケートなどを通し、参加者が互いの意見を聞きながら計画をつくりあげていくことで、より公園を身近に感じ愛着を得る良い機会となったことから、順調としました。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ワークショップにおいては、造園コンサルタントや市職員が助言をしつつ、使用可能なものは再利用したり、新設の施設についての必要性などを参加した住民の皆さんと議論したり、常にコスト削減の考え方を取り入れた再整備計画案を策定しています。また、民間活力導入については、公共性が極めて高い事業であることから、他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当と考えています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

ワークショップ参加者の年齢層に偏りがみられるため、多世代参加に向け更なる努力が必要です。まちづくり協議会には、町内会長や公園愛護会長のみなならず、婦人会や子ども会、小学校PTA へ、参加の声かけをお願いしていきます。一方、市はひきつづき、小学校への遊具アンケート等を行い、さまざまな世代、さまざまな立場の住民の意見を吸い上げることにつとめます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	愛着の持てる身近な公園づくり						掲載ページ		
							137		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建設局
		942,667	千円	0	千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	緑政課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	身近な公園において、利用者の要望、意見や危険箇所、老朽箇所に対応した維持補修・改修を行います。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	身近な公園において、利用者の要望、意見や危険箇所、老朽箇所に対応した改修を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	住区基幹公園における維持補修等実施公園数	223 公園	230 公園	286 公園	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	各区まちづくり整備課や東西整備事務所において、主に徒歩圏内の地域住民が利用する公園（住区基幹公園）を対象に行う維持補修・改修工事として、年間約230公園を目標に改修作業を行います。 （最終目標と最終年度）			124.3 %			
						順調	
（最終目標と最終年度）							

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成26年度は事業費が縮減する中、計画的に整備を実施しました。身近な公園では、子どもから高齢者まで幅広い利用があり、利用者が安心して楽しめる公園づくりに努めます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	利用者の意見や要望を踏まえ、危険箇所・老朽箇所の解消を第一に、必要最低限の整備を行なっています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
当事業は、平成26年度で終了します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	紫川都市基盤河川改修事業（紫川マイタウン・マイリバー整備事業）						掲載ページ		
							137		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建設局
		583,800	千円	340,350	千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	水環境課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	小倉都心地域で、治水対策とあわせ、人々が川に集い・憩い・賑わう、「川を軸としたまちづくり」をテーマとした河川整備を行います。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	護岸工事や河道掘削等の河川整備事業を進めることで、潤いのある水辺空間の形成を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	事業進捗率		83 %	84 %	84 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	護岸工事や河道掘削等の河川整備事業を順調に達成していくことで、潤いのある水辺空間の形成とともに、治水整備が施され、安全・安心なまちづくりを進めていくことができます （最終目標と最終年度） 100%（平成35年度）				100.0 %		
						順調	順調
					やや遅れ		
					遅れ		

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 護岸工事や河道掘削等の河川の整備により、順調に事業進捗率が推移しています。地域企業、まちづくり団体、行政が一体となった祭りやイベントなど、身近な水辺を中心とした賑わいが活発化しています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 整備箇所ごとに最も経済的な方法を検討し整備を行っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
今後、さらに安全な水辺空間となるよう、治水対策の向上を図るために、護岸工事や河道掘削等の河川整備を行います。潤いのある水辺空間の形成が図られているため、現状のまま進めることが適当と考えます。また、近年、ゲリラ豪雨が頻発する等、河川改修の必要性も高くなっていることから、治水整備もあわせて行うべきだと考えます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	新・海辺のマスタープラン推進事業						掲載ページ		
							138		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	港湾空港局
		1,384	千円	1,642	千円	施策名	安全・安心なまちづくり	担当課	開発課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 多くの人が、海辺を舞台に憩い、学び、遊ぶことのできる魅力ある海辺を目指します。	活動実績 活動成果は下記のとおりです。
活動計画	平成23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」の「利用できる海辺を増やす」、「親しまれる度合いを高める」という目標に基づき、水際線の整備を推進するために臨海部の利活用の検討等を行います。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
		市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合 市民アンケートで、市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合をモニタリングします。（調査は、毎年度行います）※最終目標は、市民の4分の3以上が満足していることを目指します。 （最終目標と最終年度） 75%（平成32年度）	33.6 %	平成25年度の割合（33.6%）より増加	52.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	（最終目標と最終年度）					

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市民アンケート結果によると、海辺や港について満足と答えた割合（52.7%）が前年度の割合（33.6%）より増加していることから、「順調」と判断しました。現在重点的に取り組んでいる施策（「中期」の施策）については、海や港を学ぶ見学会の開催を通じて、訪れるきっかけをつくり、海辺に親しんでいただく機会を創出しました。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は、マスタープランに掲げる施策に順次取組むものであるため、各取組みを行う中で経済性・効率性の向上について検討していきます。また、各取組みは多岐にわたり、他局との連携が必要なものもたくさんあるため、他の事業との連携を視野に入れつつ、効率の良い事業の推進に努めます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

「新・海辺のマスタープラン」は計画の策定から概ね5年が経過するため、これまでの各事業の進捗状況を検証するとともに、毎年度行なっている上記市民アンケートとは別に、市民ニーズの把握のアンケート調査を行い、社会経済情勢の変化や市民意識の変化を踏まえた計画の見直しを行い、より市民のニーズにあった事業を実施することで、本プランをさらに推進していきます。